

乳幼児の描画表現 再検証 その2 ——今日の乳児の Scribble を検証する——

Reexamination of Drawings by Infants, Part II :
Examining Scribbles by Infants of Today

平田 智久
Tomohisa Hirata
(幼児教育学科)*

はじめに

「乳幼児の描画表現 再検証 その1」⁽¹⁾で一見無意味に見えるスクリブルの中に、子ども自ら感覚を駆使し行動し考えをめぐらすといった、人間として育つための重要な営みが潜んでいることを明らかにした。その重要な営みとは、スクリブル期の描画行動によって自分の感覚器官を働かせて受け入れる（入力）、反応・行動する（出力）、自らの行動が刺激となって反復する営みであり、そうした繰り返しが感性を磨くことになる。さらにそうした繰り返される営みの間で、自分以外の人と関わる。ある時は刺激してくれる人であり、またある時は自らが刺激する人になっていたり、つまり受けたり発信したりという表現行動の原初的体験がスクリブル行動に含まれている。

これは先行研究の多くが描画行動の前段として、無統制の行動・意味を持たないとしている論と大きく異なると指摘した。

さらにスクリブル期を行動の内容によっておおよそ3つに分類した。偶発的であろうと模倣からであろうと手を動かしたら痕跡が残った…と言う驚きや緊張の時期のスクリブル獲得期、痕跡を意図的に残そうとして（平易に言えば、手を動かして線や点を描いてみたくて）行動している象徴的スクリブル期、描いた痕跡が視覚的刺激となって言葉を添えるようになる意味付けスクリブル期の3つである。

そのスクリブル期を3期に分類した仮説を現在の乳幼児の描画について調査研究し、また、スクリブルに関した先行研究の中でV・ローエンフェルドやR・ケログ、W・グレッツィンゲルは乳幼児のスクリブルについてどのような分類や受け止め方をしているかについて比較検証を試みようとする。

* The Course of Early Childhood Education

キーワード：スクリブル (Scribble). 成長. 描画発達

I 研究の目的と方法

乳幼児の表現行動を的確に受けとめ、それに応える保育の実現は今日の社会における必要かつ重要なことと考える。乳幼児が描くスクリブルを通して子どもの発達をとらえ、子どもの意志や意図を感じ対応できる保育環境を築くことが保育目的であることは言うまでもない。

そこで乳幼児のスクリブル期の実態を把握するために、スクリブルの描き始めの作品から、それに意味付けをする時期、円や線などを組み合わせて描く時期までの作品を収集し検討する。

しかしながら一人の子どもが描いたすべての作品を収集することは困難なことであり、さらに多くの乳幼児の作品を比較検討し、共通性や類似性を見出すことも容易ではない。そこで本研究はそうした研究へ向けての事前研究として行いたいと考える。

千葉県我孫子市にある私立慈絃保育園に依頼し、〈一人の子どもの作品で、描き始めたところから円や線を組み合わせて描くようになった作品で、園に保存している作品〉について提供してもらった。

それらの作品を子ども別に描いた日順に並べることから着手し、調査研究を進めた。

また、先行研究との比較検証についてもこの調査研究と並行して行うことにした。

調査研究の経過と考察は「保育園からの提供作品を通しての検証」と「先行研究との比較検証」とに分けて記述した。

経過と考察 I

「保育園からの提供作品を通しての検証」

その提供された作品は10名分308点であった。しかし、スクリブルの描き始めの作品から意味付けをする時期、円や線などを組み合わせて描く時期までということになると、必ずしも適切なものではない。そこで今回提供された作品の中から本研究にとって重要なものを抽出し、個々の子ども別にし、描かれた順に並べると図1となった。(ただし、紙面の都合上解説に必要な作品のみを掲載し、他は割愛した。)

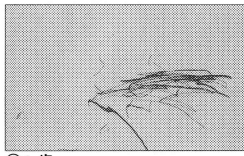
さらに、その提供された作品についてのデータ(描いた乳幼児の性別・生年月・描き始めた年齢・描いたものに意味付けを始めた年齢・円や線を組合せて描き始めた年齢)を表1にまとめた。

“描き始めた年齢”とは、あくまでも保存されていた作品の中で最も生年月日に近い作品の日付である。

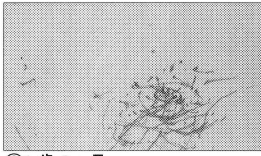
“描いたものに意味付けを始めた年齢”とは、作品の裏や脇に記述されていた保育者のメモを参考にした。黙々と描くうちに、描き終わって命名したり描きながらつぶやくなど、何らかの意味(イメージ)を描かれた線の痕跡に感じ、ことば化した時点である。この時点以前は黙々と描きながらイメージをひろげるが、ことば化されないため、そのイメージは本人以外にはわ

図1

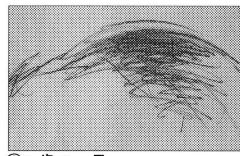
A. 男 平成6年4月生れ



①1歳



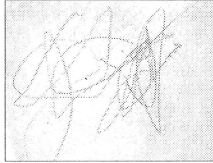
②1歳2ヶ月



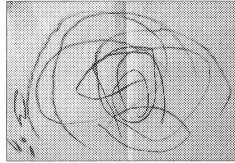
③1歳6ヶ月



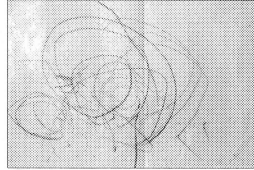
④1歳7ヶ月



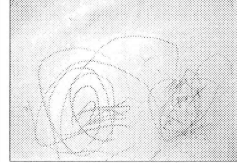
⑤1歳9ヶ月



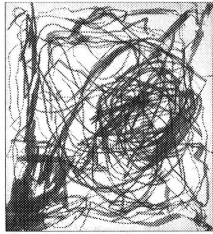
⑥2歳1ヶ月
「おみみ かいたの」



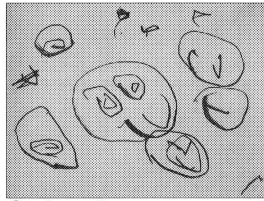
⑦2歳3ヶ月



⑧2歳6ヶ月
「ママのパパ」



⑨2歳7ヶ月
「パパ」



⑩2歳8ヶ月
「ぼうしやさん・バイクやさん」

B. 男 平成6年5月生れ



①1歳1ヶ月



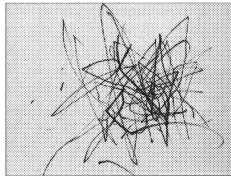
②1歳5ヶ月



③1歳6ヶ月



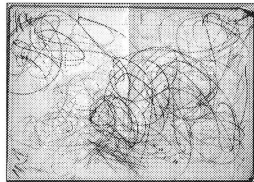
④1歳8ヶ月



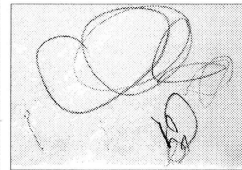
⑤1歳9ヶ月



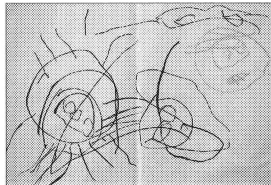
⑥2歳



⑦2歳1ヶ月

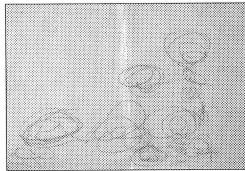


⑧2歳3ヶ月
「あんぱんまん」

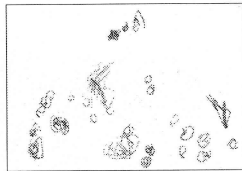


⑨2歳7ヶ月
「おばけ」

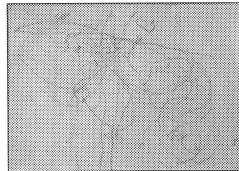
C. 男 平成6年5月生れ



①2歳
「ピーポ・とうさん・ぞうさん」



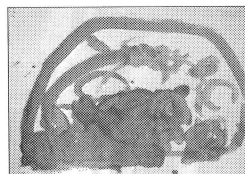
②2歳2ヶ月



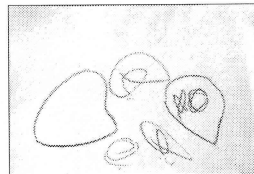
③2歳5ヶ月



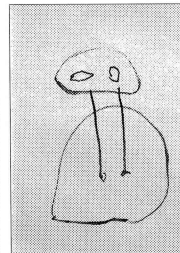
④2歳7ヶ月
「サンタクロース」



⑤2歳8ヶ月
「カメさん」



⑥2歳8ヶ月
「ママ・パパ・いっちゃん…」



⑦3歳1ヶ月
「ゆうちゃん」

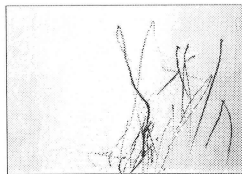
D. 男 平成6年7月生れ



①1歳3ヶ月



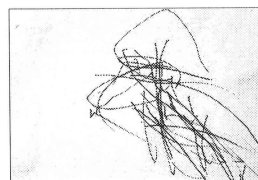
②1歳4ヶ月



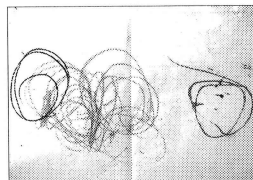
③1歳6ヶ月



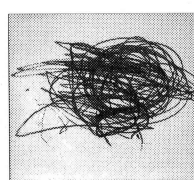
④1歳6ヶ月
「ママ」



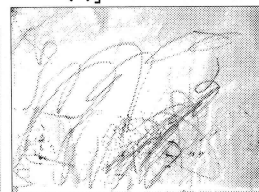
⑤1歳7ヶ月



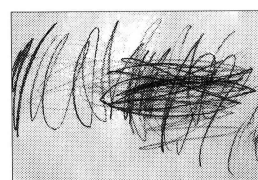
⑥1歳11ヶ月



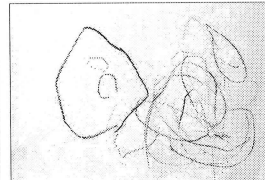
⑦2歳4ヶ月
「ママ」



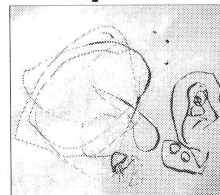
⑧2歳5ヶ月



⑨2歳9ヶ月



⑩2歳11ヶ月
「おかあさん」

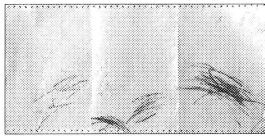


⑪3歳
「パパとママ」

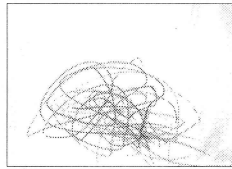
E, 女 平成6年8月生れ



①1歳



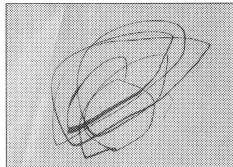
②1歳3ヶ月



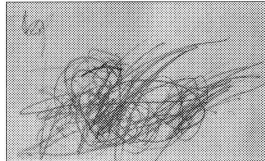
③1歳4ヶ月



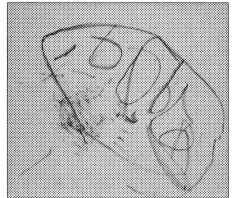
④1歳5ヶ月



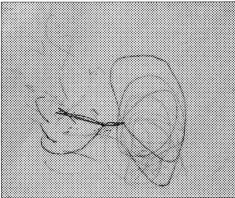
⑤1歳5ヶ月
「アンパンマン」



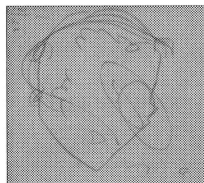
⑥1歳10ヶ月



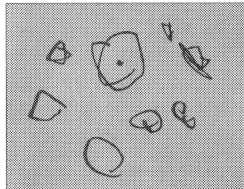
⑦1歳10ヶ月
「バイキンマン」



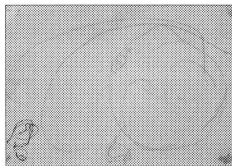
⑧2歳2ヶ月
「たえこせんせい」



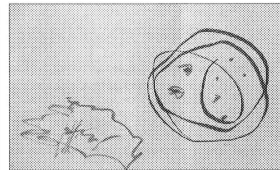
⑨2歳2ヶ月
「アンパンマン…」



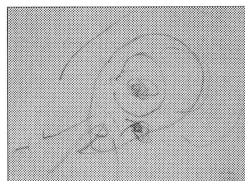
⑩2歳4ヶ月



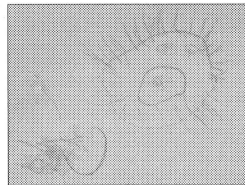
⑪2歳5ヶ月
「アンパンマンのママ」



⑫2歳8ヶ月
「びーちゃん」



⑬2歳10ヶ月
「アンパンマン」



⑭2歳11ヶ月
「トロ」

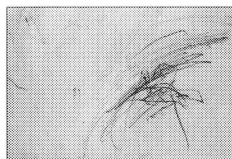
F, 男 平成6年10月生れ



①1歳



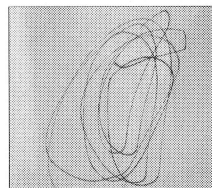
②1歳1ヶ月



③1歳2ヶ月



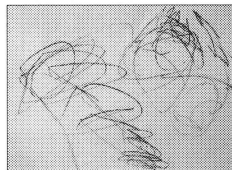
④1歳3ヶ月



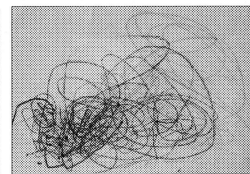
⑤1歳8ヶ月



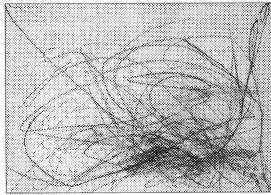
⑥1歳10ヶ月



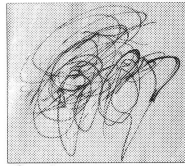
⑦1歳11ヶ月



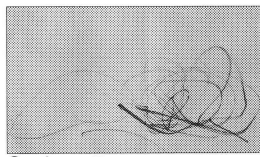
⑧2歳1ヶ月



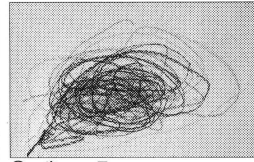
⑨2 歳 3 ヶ月



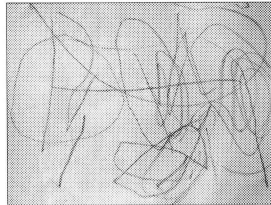
⑩2 歳 4 ヶ月



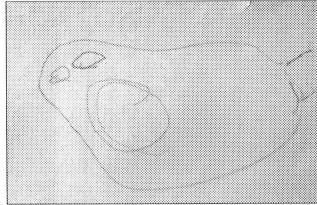
⑪2 歳 6 ヶ月



⑫2 歳 9 ヶ月

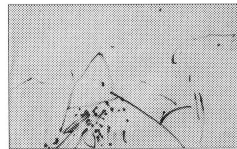


⑬3 歳
「ひこうき」

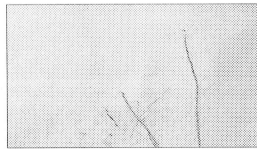


⑭3 歳 1 ヶ月
「おばけ」

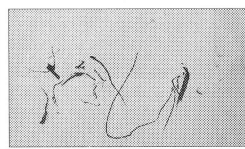
G, 女 平成 6 年 11 月 生 れ



①1 歳



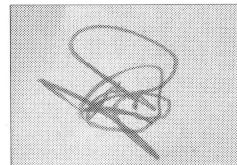
②1 歳 2 ヶ月



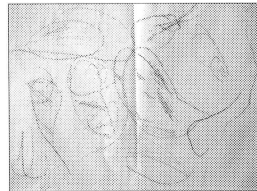
③1 歳 3 ヶ月



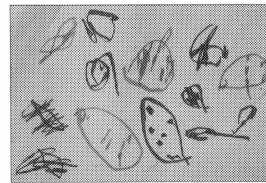
④1 歳 9 ヶ月



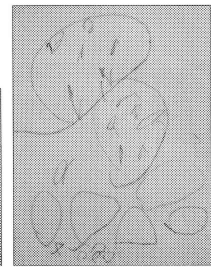
⑤2 歳



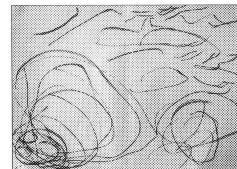
⑥2 歳 1 ヶ月



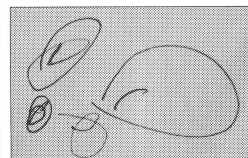
⑦2 歳 1 ヶ月
「ママ・パパ・おばあちゃん」



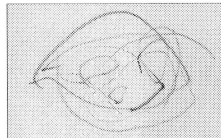
⑧2 歳 2 ヶ月
「アンパンマン」



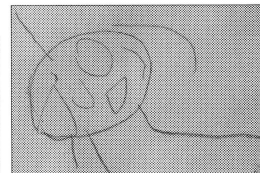
⑨2 歳 5 ヶ月



⑩2 歳 7 ヶ月

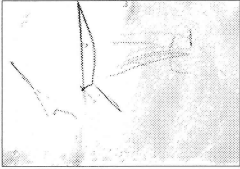


⑪2 歳 9 ヶ月



⑫2 歳 10 ヶ月
「おばけ」

H, 女 平成7年1月生れ



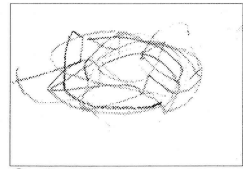
①1歳



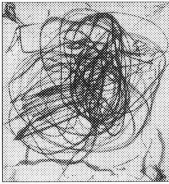
②1歳2ヶ月



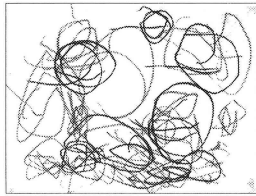
③1歳8ヶ月
「アンパンマン」



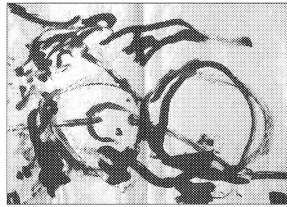
④1歳9ヶ月



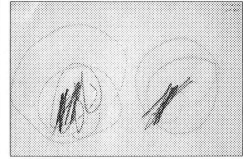
⑤1歳10ヶ月
「アンパンマン」



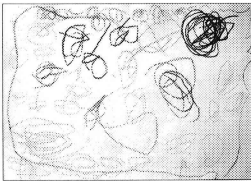
⑥1歳11ヶ月
「アンパンマン」



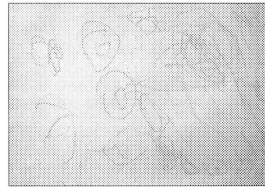
⑦2歳



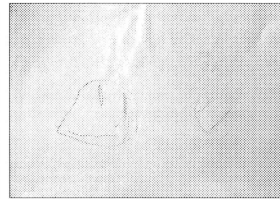
⑧2歳5ヶ月
「ママとミーちゃん」



⑨2歳9ヶ月
「アンパンマンと…」

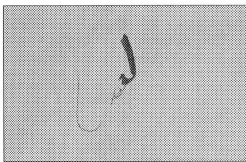


⑩2歳10ヶ月
「アンパンマンと…」

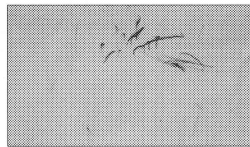


⑪3歳
「パパとママ」

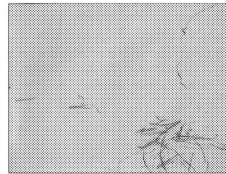
I, 女 平成7年8月生れ



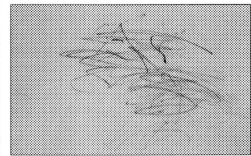
①10ヶ月



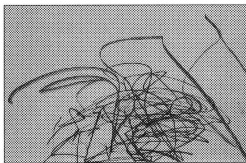
②11ヶ月



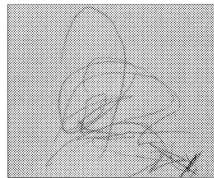
③1歳2ヶ月



④1歳4ヶ月



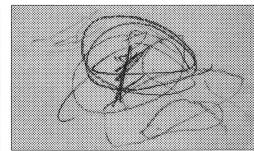
⑤1歳5ヶ月



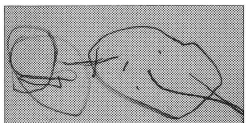
⑥1歳9ヶ月



⑦1歳10ヶ月



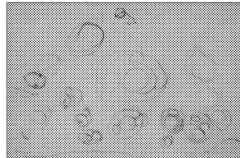
⑧2歳2ヶ月



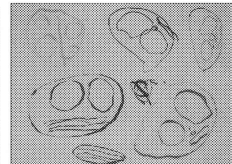
⑨2歳3ヶ月
「はな・くち・ちーちゃん」



⑩2歳4ヶ月
「アンパンマン」

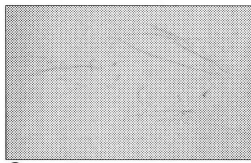


⑪2歳6ヶ月
「アンパンマンできた」

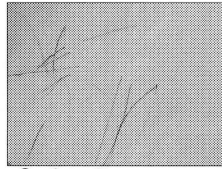


⑫2歳8ヶ月
「チュウリップだよ」

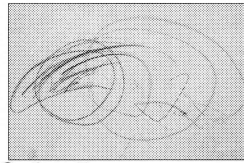
J. 男 平成9年11月生れ



①11ヶ月



②1歳3ヶ月



③1歳7ヶ月

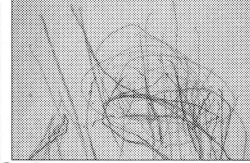
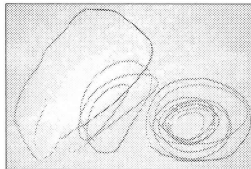
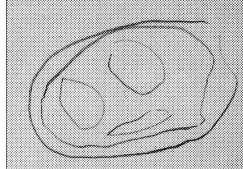
④2歳
「アンパンマン」⑤2歳2ヶ月
「これは…」⑥2歳6ヶ月
「チョコパンマン」

表1 慈絨保育園作品データ

乳幼児名	性別	生年月(平成)	描き始め	意味付け開始	図形の組合せ
A	男	6年4月	1歳	2歳1ヶ月	2歳8ヶ月
B	男	6年5月	1歳1ヶ月	2歳3ヶ月	2歳7ヶ月
C	男	6年5月	不明	2歳	2歳8ヶ月
D	男	6年5月	1歳3ヶ月	1歳6ヶ月	2歳11ヶ月
E	女	6年8月	1歳	1歳5ヶ月	2歳8ヶ月
F	男	6年10月	1歳	3歳	3歳1ヶ月
G	女	6年11月	1歳	2歳1ヶ月	2歳10ヶ月
H	女	7年1月	1歳	1歳8ヶ月	3歳
I	女	7年8月	10ヶ月	2歳3ヶ月	2歳8ヶ月
J	男	9年11月	11ヶ月	2歳	2歳6ヶ月

からない。描きながらの身振りや表情によってその痕跡が何らかの意味を持つ対象になっていることは、描いている傍にいる人なら察知することが出来る。しかし、たとえ傍で観ていなくても描かれた線の痕跡から子どもの思いが読み取れる…という立場は本研究の重要な部分でもある。

“円や線を組合せて描き始めた年齢”とは、いわゆるスクリブルから脱し、単独の円を描くようになり、その円をいくつか組合せたり、円と線を意図的に組合せて描かれた作品になったころである。

そのデータから次のことがわかった。

- ※1, 描き始めたのは一人を除き5人が満1歳で、一番早く描いた子どもは10ヶ月、ゆっくり描き始めた子どもは1歳3ヶ月であった。その差は5ヶ月であった。

この時期は本研究の仮説<スクリブル獲得期>にあたる。描き始める行為はその子どもの生活環境から大きく影響を受けると考えられる。

保育園という集団保育の場で共通の刺激を受けた行動の為描き始めの時期が接近していると考えられる。

- ※2, 描いたものに意味付けを始めた年齢とは仮説<意味付けスクリブル期>に入った年齢で、1歳5ヶ月から3歳までと個人差があるものの10人中6人が2歳から2歳3ヶ月に集中している。

- ※3, 円や線を組合せて描き始めた時期とはスクリブルからピクチャーへと移行していく分岐点の様である。組合せて描き始めた年齢はほとんどの子どもが3歳までであり、2歳6～8ヶ月に10人中6人が集中しているのが特徴的である。また、その組合せをゆっくり獲得した子どもは3歳1ヶ月児で、早く獲得した子どもとの月齢差は7ヶ月であった。描き始めの月齢差が5ヶ月であった事を考えると描き始めの時期こそ違うが円や線を組合せて描くようになるまでの期間は個人差が少ない。

- ※4, 描き始めから意味付けを始めるまでの間はスクリブル獲得期と象徴的スクリブル期とが渾然となっている時期である。しかし、画面に現れた痕跡を分析することで獲得の時期なのか象徴的な意味を持つ行為なのかは判断できる。その分類は描線から読み取ること、画面上のどこに描かれたかによって明確になる。つまり、描き始めは痕跡が残ることに興味が向けられており、手の運動とその結果としての痕跡との不思議さに浸っている。まさにスクリブルを獲得した時期で、その不思議さが行動の源になっていることとして受け止め共感することが自ら育とうとしている子どもにとって重要となる。

また、手を動かすと線や点が描けるという経験は痕跡を意識的に残そうと行動し始める。手や腕のコントロールがたどたどしいながらも意識されるようになると、幾度となく手を止めるなど描線にも変化が現れてくる。また画面上にも『ここに描きたい』という思いから、手と紙(描かれる面)とが触れたところならどこでも良いというのではなく意識された痕跡の集合として描くという変化が認められる。そうした意識された行為としてのスクリブルが象徴的スクリブルである。そうした痕跡の不思議さに浸る時や意識して描く時を繰り返しながらこの時期を充実させていく。

ここで注目したいのは期と期との間の時間的経過である。描き始めから意味付け開始までの経過期間を第1経過期間、意味付け開始から図形を組合せるようになるまでを第2経過期間として表2にまとめてみた。

- ※5, ※3で示した『図形を組合せることを早く獲得した子どもとそうでない子どもの月齢差は7ヶ月であった。描き始めの月齢差が5ヶ月であった事を考えると描き始めの時期こそ違うが円や線を組合せて描くようになるまでの期間には個人差が少ない』ということが表2の全経過期間の数値(描き始めが不明の1名を除く9名のうち5名が1年6～8ヶ月間で図形を組合せている。

表2 経過期間の比較

乳幼児名	描き始め	第1経過期間	意味付け開始	第2経過期間	図形の組合せ	全経過期間
A	1歳	1年1ヶ月	2歳1ヶ月	7ヶ月	2歳8ヶ月	1年8ヶ月
B	1歳1ヶ月	1年2ヶ月	2歳3ヶ月	4ヶ月	2歳7ヶ月	1年6ヶ月
C	不明		2歳	8ヶ月	2歳8ヶ月	不明
D	1歳3ヶ月	3ヶ月	1歳6ヶ月	1年5ヶ月	2歳11ヶ月	1年8ヶ月
E	1歳	5ヶ月	2歳5ヶ月	1年3ヶ月	2歳8ヶ月	1年8ヶ月
F	1歳	2年	3歳	1ヶ月	3歳1ヶ月	2年1ヶ月
G	1歳	1年1ヶ月	2歳1ヶ月	9ヶ月	2歳10ヶ月	1年10ヶ月
H	1歳	8ヶ月	1歳8ヶ月	1年4ヶ月	3歳	2年
I	10ヶ月	1年5ヶ月	2歳3ヶ月	5ヶ月	2歳8ヶ月	1年10ヶ月
J	11ヶ月	1年1ヶ月	2歳	6ヶ月	2歳6ヶ月	1年7ヶ月

さらに1年10ヶ月間で描いた2名を加えると9名中7名が図形の組合せを獲得したことになる。)を見ても明らかである。つまり、「乳幼児が描き始めるとどの子どもも一応に一定期間の経験の積み重ねから図形を組合せるようになる」といえる。

※6, その図形を組合せて描くようになるまでに“意味付け”という大きな山を越えることになる。その山を越える前と越えてからで、個人差がかなりあることに気づいた。描き始め～意味付け開始を第1経過期間(1経過), 意味付け開始～図形の組合せを第2経過期間(2経過)とし比較すると, 1経過が長く2経過が短いA・B・I・J・G児, 特にF児は極端で1経過が2年, 2経過が1ヶ月であった。逆に1経過が短く2経過が長いのはD・E・H児であった。

以上のことから個々の育ちに特性があることがわかる。したがってそうした一人一人の発達の特性に呼応する保育が重要になる。

経過と考察Ⅱ

「先行研究との比較検証」

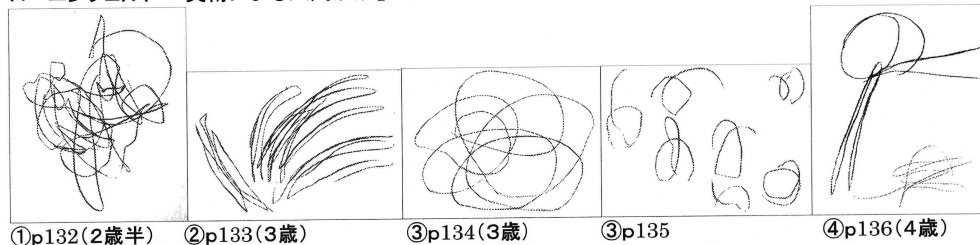
スクリブルに関する先行研究の中でV・ローエンフェルドやR・ケロッグ, W・グレッツィンゲルは乳幼児のスクリブルについてどのような分類や受け止め方をしているのかについて比較検証を試みた。

研究対象児の年齢を比べてみると, 検証した3人の研究ではすべて2歳児からであった。

V・ローエンフェルドはその著「美術による人間形成」⁽¹⁾ “第3章自己表現の最初の段階”の冒頭で『…ある時期(通常2歳前後)…』と述べており, R・ケロッグも自身の著「児童画の発達過程」⁽²⁾ 序言の中で『…本書の基本として私が検討した絵は主として, サンフランシスコのゴールデンゲート幼稚園協会の保育学校に在籍する児童から得られた。1948年から1966年まで, 協会は2, 3, 4歳児約2000名のためにクラスを開いた。…』とし, 図版の中には20ヶ月児の実例(p31)も観られることから両者とも2歳児以前についても検討していたことがわかる。

図2

ローエンフェルド「美術による人間形成」より



W・グレッツィンゲルは「幼児画の謎」⁽³⁾ 第一部・二 (p25) でなぐり描きについてまとめている。図版も記述も“2歳”となっているが明確に何ヶ月かを明記されていない。しかし、三者に共通していることは2歳児からの研究であり、本研究のめざす描き始めから(2歳未満)のデータを得ることは出来なかった。

そこでV・ローエンフェルドの著「美術による人間形成」図版を手がかりにして、保育園からの提供作品と照合してみた。その結果は次の通りであった。

※V・ローエンフェルドの「なぐり描きの一般的発達」と比較して

V・ローエンフェルドはこの時期を4つに分類している。

- ①未分化(でたらめ)
- ②経線, または制御されたなぐり描き
- ③円形なぐり描き
- ④なぐり描きへの注釈

図版では, 図2である。

その中で最も興味を抱いたのは①未分化(でたらめ)である。その図版には『動作がでたらめなことを示す。2歳半の子供の未分化なぐり描き。』とある。

保育園からの提供作品で図2と同じような作品を選び検証してみた。(図3)

検証に際しおよそ次のようなポイントで選び出した。

- ・描線が連続している。
- ・その描線は曲線ばかりでなく, 直線も含まれる。
- ・時折鋭角的に進み, 方向が変化していても良い。

すると, 10名中9名の作品の中に含まれていた。

図3のA~Jのそれぞれの作品に○付数字が付してあるが, それは描き始めてからの順番を示しており, 図1でその数より前の作品(描き始めのころの描線)と比べてみると, 図3でとり上げた作品はかなり意識的な描線に見えてくる。画面の中に, ある限られた範囲の中で, あたかも焦点を決めて腕をコントロールしているように伝わってくる。

そこで提供作品をスクリブル獲得期・象徴的スクリブル期・意味付けスクリブル期の3期に分類できるとした平田の仮説に沿って分けてみた。(表3)

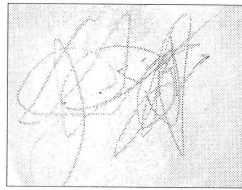
するとローエンフェルドの言う「未分化」のスクリブルは平田説の象徴的スクリブル期に含

図3

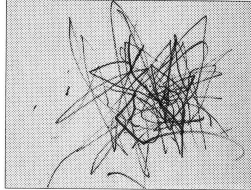
ローエンフェルド



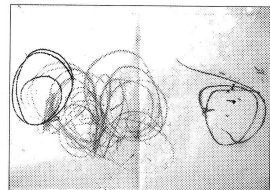
①p132(2歳半)



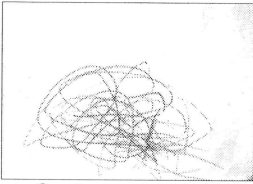
A ⑤1歳9ヶ月



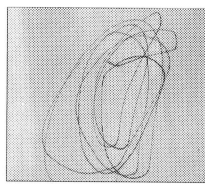
B ⑤1歳9ヶ月



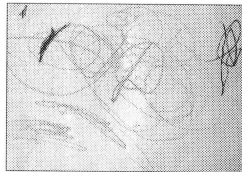
D ⑥1歳11ヶ月



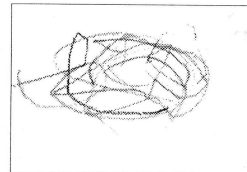
E ③1歳4ヶ月



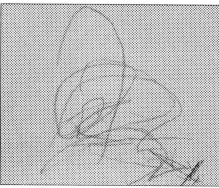
F ⑤1歳8ヶ月



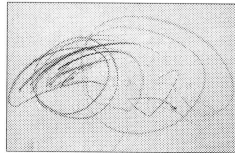
G ④1歳9ヶ月



H ④1歳9ヶ月



I ⑥1歳9ヶ月



J ③1歳7ヶ月

表3 スクリブル3期 (平田説)

乳幼児名	スクリブル獲得期	象徴的スクリブル期	意味付けスクリブル期	太字表記の描画年齢
A	①	②③④⑤⑦	⑥⑧⑨⑩	1歳9ヶ月
B	①②	③④⑤⑥⑦	⑧⑨	1歳9ヶ月
C		②③	①④⑤⑥⑦	
D	①②	③⑤⑥⑧⑨	④⑦⑩⑪	1歳11ヶ月
E	①②	③④⑥⑩	⑤⑦⑧⑨⑪⑫⑬⑭	1歳4ヶ月
F	①②	③④⑤⑨⑩⑪⑫	⑬⑭	1歳8ヶ月
G	①②③	④⑤⑥⑨⑩⑪	⑦⑧⑫	1歳9ヶ月
H	①②	④⑦	③⑧⑨⑩⑪	1歳9ヶ月
I	①②③	④⑤⑥⑦⑧	⑨⑩⑪⑫	1歳9ヶ月
J	①②	③	④⑤⑥	1歳7ヶ月

太字はローエンフェルドのいう未分化期の作品例と似た作品

まれてしまう。

ローエンフェルドは「未分化」の説明を次のようにしている。

『かなりの期間なぐり描きをして後（始めてから6ヶ月）、ある時期に、子供は自分の動作と紙の上につけてあるものとの間に関係のあることを知るようになる。…』

確かにこれら（図3）の作品は描き始めた絵から数ヶ月後に描かれた作品ばかりである。その意味において彼の指摘に合致している。また、動作と痕跡との関係も意識している。しかし、それは“でたらめ”な動作ではなく視覚的統御へ向かっている行動に思える。むしろ図3で示した作品以前の作品こそ、偶発的であろうと模倣からであろうと手を動かしたら痕跡が残った…と言う驚きや緊張の作品といえる。その時期こそ「未分化」の時期であり、スクリブル獲得期に相当する。

ローエンフェルドは2歳以前の作品については触れていない。その部分が本研究で明らかになった。

痕跡を意図的に残そうとしている行動は、手を動かして線や点を描いてみたいという欲求の高まりであり、ローエンフェルドのいう『視覚的統御を発見してきたこと』である。それは彼の言う「経線、または制御されたなぐり描き」に相当する。また『…もっと複雑な形式の動作をしようとする。これらの動作の結果として、今や、腕全体の運動によって表現される円形の線を引くようになるのである。』と、「円形なぐり描き」を解説している。

そうしたことをまとめてみると、痕跡が残るという不思議さから、痕跡を作ろうと行動するようになる。そして眼前の痕跡に刺激され影響を受けて行動が継続される。それはまさに子どもの思いが象徴されている行動として受けとめなくてはならない。やがて“ことばの獲得”と相互的に絡み合い、描いた痕跡に意味をつけるようになる。その「描いた痕跡に意味をつける」ことはローエンフェルドのいう「なぐり描きへの注釈」と合致する。（意味付けスクリブル期）

ことばによる説明がつかなくても意図して行動している描画行動は重要で、それを感受する子どもの環境（周囲の大人達）がそれに気づき価値のある行為として認めることで子どもは主体的に生きる自分自身を獲得していく。これは単に描画行動にとどまることなく、子どもの人間形成に重要な影響をもつ。

そうした重要な時期として「象徴的」スクリブルを受けとめなければならない。

しかしながら、この時期を「なぐり描き」として軽く見過ごしてしまう傾向が現実にある。決して「無統制の」行為でもなく、「描きなぐる…」といったことばから受け取るイメージも大きく影響するのではないだろうか。

そうしたいくつかの方向から考えると、子どもの育ちを保障する為にも「象徴的スクリブル期」の対応は重要である。

以上の重要性から考えると、V・ローエンフェルドのいう“円形のなぐり描き”の獲得は次へのステップとして重要ではあるが「象徴的」時期に含まれる問題であると言えよう。

Ⅲ まとめ

先行研究のほとんどが2歳からの研究であり、それをそのまま現在の子どもに適用できな

い。描き始めも表1で明らかなように1歳前後である。意味をつけるようになる時期も2歳ごろであり、図形として円形や線を組合せ始めることも3歳ごろで、すべての子どもの行動が今までの考え方から1年早い事が明確に確認できた。明らかに時代の変化による生育環境の違いであろう。

そうした意味で現前の子どもを見つめた対応を図ることこそ育児や保育に重要と考える。

乳幼児期の描画行動の不思議さはスクリブルばかりではない。具体的な描画表現になればなるほど子どもの考えや感じ方から離れ、大人概念や理論に当てはめて反応してしまう。

その描画から何を感じ取り、どのように反応するかという子どもとの関わり方や受け手の価値観が子どもの成長に大きく影響するだけに、本研究のもつ意味は大きい。今後も継続研究をしていきたい。

今回提供された作品は保育園という集団保育の場で共通の刺激を受けた行動の為描き始めの時期が接近していると考えられる。家庭で育った子どもの様子についても検証したい。

また、V・ローエンフェルドの論に引き寄せられながら進めてきたが、R・ケロッグやW・グレッツィンゲルのいうスクリブル論に照らしながら検証しなければならないと考えている。

最後に、作品を心よく提供して下さった慈絃保育園に心から感謝の意をのべたい。

参考文献

- (1) 「十文字学園女子短期大学研究紀要」第30集173～181（1999年）
- (2) 「美術による人間形成」V・ローエンフェルド著 武井勝雄他訳 p131～154
1996年 黎明書房刊
- (3) 「児童画の発達過程」R・ケロッグ著
深田尚彦訳 昭和46年 黎明書房刊
- (4) 「幼児画の謎」W・グレッツィンゲル著
鬼丸吉弘訳 昭和55年 黎明書房刊